

【訂正とお詫び】

2011年12月刊行の『遠野物語と源氏物語』の p.46 に各行末1文字ずつの脱字がありました。訂正してお詫び申し上げます。

正しい表記は以下のとおりです（赤太字が脱字）。

「…／かかっているのは、左側のほう、／この家の主人夕霧とその妻です。／物語はこうした邸宅の主人格が／主人公で、女房は彼らの物語の／媒介者なのです。

図13は同じ『源氏物語／絵巻』、左側手前では女房が覗／き込んでしまっています。右／側奥にいるのが天皇、その前に／いるのは薫です。天皇はいま、／薫と碁を打っていますが、魂胆／があり、この碁にわざと負ける／つもりです。負けた暁には「罰／ゲームにうちの娘をやろう」と／切り出して、断れない形で娘と／結婚させるつもりです。おそら／く女房たちはその企てを知って／いて、経過が気になり、一人は／…」

なお、修正したページは、次ページよりご確認ください。

かれているのは、左側のほう、この家の主人夕霧とその妻です。物語はこうした邸宅の主人格が主人公で、女房は彼らの物語の媒介者なのです。

図13は同じ『源氏物語絵巻』、左側手前では女房が覗き込んでしまっています。右側奥にいるのが天皇、その前には薫と碁を打っていますが、魂胆があり、この碁にわざと負けるつもりです。負けた暁には「罰ゲームにうちの娘をやろう」と切り出して、断れない形で娘と結婚させるつもりです。おそらく女房たちはその企てを知っていて、経過が気になり、一人は



図12 聞き耳を立てる女房たち(『源氏物語絵巻』「夕霧」、五島美術館蔵)



図13 覗き込む女房たち(『源氏物語絵巻』「宿木一」、徳川美術館蔵 ©徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom)